

津島市在宅医療連携拠点事業

愛知県津島市健康福祉部高齢介護課 在宅医療連携グループ

津島市の概要と在宅医療連携拠点事業

面積：25.08km²

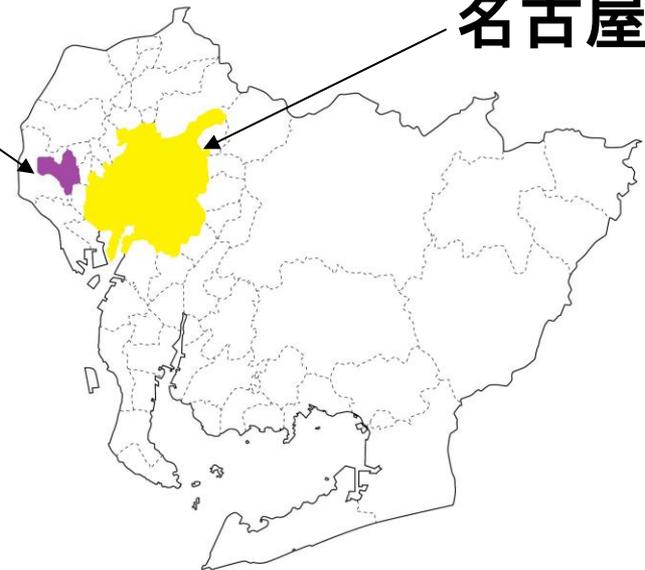
人口：65,746人（平成25年1月）

世帯数：25,539世帯（平成25年1月）

高齢化率：23.2%（平成24年4月）

津島市

名古屋市



高齢介護課 在宅医療連携グループ 平成24年4月

事務職 1名

介護支援専門員の資格を持つ看護師 1名

医療ソーシャルワーカー 1名

① 多職種連携の課題に対する解決策の抽出

津島市医歯薬介連携推進協議会

「あんしんネットつしま」 平成23年4月

医師会 歯科医師会 薬剤師会 居宅介護事業者連絡協議会
地域包括支援センター 市民病院 津島市

・ 地域連携フォーラム ・ 連携プロフィール帳 ・ 事例検討会

津島市在宅医療連携推進協議会

保健所 社会福祉協議会 保健センター などの参加

アンケートの実施

調査対象：市内医療機関 薬局 訪問看護ステーション
介護保険事業所

調査時期：7月～8月 調査方法：郵送 ⇒ 訪問回収

配布数：278件 回収率：93.5%

① 多職種連携の課題に対する解決策の抽出

アンケート結果から：課題

在宅医療従事者の負担軽減

- (1) 複数の医療機関の連携体制
- (2) 緊急時入院体制
- (3) 在宅医療総合相談窓口の開設

情報共有体制の構築・多職種連携の強化

- (4) 情報共有ツール
- (5) 医療・介護従事者との連携

② 在宅医療従事者の負担軽減の支援

(1) 複数の医療機関の連携体制

ワーキンググループ

在宅医療を実践している診療所、薬局
訪問看護ステーション、介護サービス事業者

(2) 緊急時入院体制

在宅医療支援病床

- ・ 市民病院に確保（5床）
- ・ 登録した診療所医師の判断で入院

(3) 在宅医療総合相談窓口の設置

- ・ 患者家族からの相談
- ・ 在宅医療従事者等関係団体からの相談

③ 効率的な医療提供のための多職種連携

(4) 情報共有ツール

在宅療養手帳

患者情報の集約と災害時の備え

- ・ 患者状況を記録
- ・ 備品チェックリスト

健康連絡帳システム (いきいき笑顔ネットワーク)

- ・ ICT活用による患者情報のスムーズな共有

(5) 医療・介護従事者との連携

顔の見える関係づくり

- ・ 「場」の提供
- ・ 合同研修会等の企画

地域包括・居宅介護事業所との連携

- ・ 担当者会議、地域ケア会議等へ出席

④ 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

ポスター掲示及びチラシの配布

- ・ 市民病院イベント
- ・ 津島市健康・福祉まつり

市民向け啓発

- ・ 病院体験ツアー参加者
- ・ 市の広報紙へ特集掲載

コミュニティ推進協議会、町内会、 社会福祉協議会等との連携

- ・ 出前講座など、地域住民との対話

老人クラブ連合会 民生委員連絡協議会

地域コミュニティ推進協議会

⑤ 在宅医療に従事する人材育成

公開講座（介護教室）

- ・ 市民病院の講座と連携

在宅医療従事者実務講座（口腔ケア）

- ・ 市民病院歯科衛生士による講座

市民病院看護局 看護実践研究発表会

- ・ 都道府県リーダー研修修了者による講義

三師会合同研修会

- ・ 都道府県リーダー研修修了者による講義

⑥ 災害発生時に備えた対応策の検討等

在宅療養手帳の活用

医療機関や避難所を掲載したマップ

医療依存度の高い患者のリスト管理

緊急連絡網

備品の整備（衛星携帯電話・発電機）

在宅医療連携拠点事業の成果

アンケート実施により課題が抽出できた

- ・ 在宅医療従事者への負担軽減が必要
- ・ 医療と介護の連携強化、情報共有体制の構築が必要

緊急時入院体制への取組みがスタートした

- ・ 緊急時の受入先を確保することで、在宅医療従事者や家族の負担軽減を図ることで、在宅医療が継続できる

医療と介護の連携が深まった

- ・ 津島市医歯薬介連携推進協議会と連携・協力した
- ・ 在宅医療従事者への実務研修を開催した

在宅医療連携拠点事業の課題

在宅医療従事者の負担軽減の支援

- ・ 在宅医療従事者と、負担軽減策を摸索していく
- ・ 複数の医療機関が連携することで、負担軽減を図る

情報共有ツールの確立

- ・ 在宅療養手帳の運用と、ICT活用による患者情報のスムーズな共有体制構築を実践していく

地域住民・団体への周知活動

- ・ 老人クラブやコミュニティ、民生委員やサロン等へ出向き、在宅医療の周知活動を実践していく

